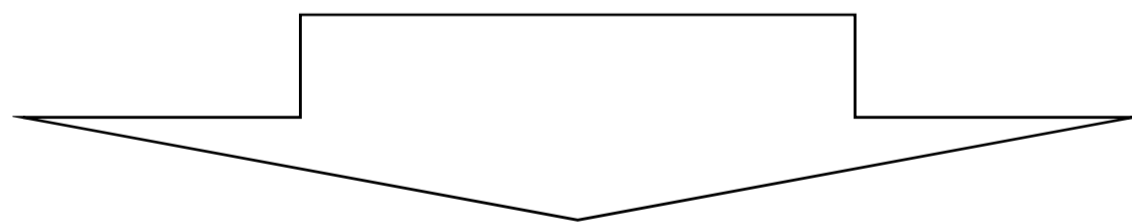


県立博物館・美術館の役割について

現在の県立博物館の役割

千葉県立博物館は、千葉県の自然・文化を守り、伝え、新たな知見を創造し、情報を発信します。この活動をとおして人材を育成し、県民の学習および地域づくりを支援します。

- ① 調査・研究を基に、新たな資料の価値を発見し、千葉県の自然・文化に関する資料を収集・保存して、後世に伝えます。
- ② 資料や調査・研究の成果を知的資産として蓄積し、その情報を発信することによって県民と共有し、文化及び科学の進展へ寄与します。
- ③ 県民に専門性や体験を重視した生涯学習の機会を提供し、自然や文化を愛する人材を育成します。
- ④ 博物館は地域の核となって、まちづくり、地域文化振興、地域おこし、といった地域づくりを支援します。



今後の県立博物館の役割見直しの視点

- ・ 県の良さ・魅力を伝える、県民の郷土への愛着と誇りを育む。
- ・ 全県域を対象とした資料の収集、展示、教育普及、情報発信。

【参考】：各館の設置目的

美術館

千葉県ゆかりの美術資料を中心として体系的に収集、保管して後世に継承するとともに、「みる、かたる、つくる」活動により新たな知見を創造し、美術情報を発信します。さらに、この美術活動をとらえて、美術を愛する人材を育成し、県民の学習および地域づくりを支援します。

中央博物館

地域の市民と共に、自然と歴史に関わる資料・情報を収集・蓄積するとともに、基礎的・国際的視野に立つ科学研究により、その新たな価値を発見し、教育、展示その他全ての博物館活動を通して県民や社会へ発信し、県民共有の知的資産として未来に伝えます。また、千葉県の中核的総合博物館として、さまざまな市民の幅広い知的ニーズに応えつつ、双方向の交流を通して、その生涯学習拠点とします。

大利根分館

東下総の地域博物館と県下全域の農村民俗資料、利根川水運等河川資料を対象とする専門館として設置しました。

大多喜城分館

東上総地方の地域博物館と県下全域の城郭、武家等の歴史資料を対象とする専門館として設置しました。

中央博物館分館海の博物館

良好な自然環境の中で、県民が直接自然にふれ、深く学べる機会を提供するため、中央博物館の野外分館として、海の分館を整備しました。

現代産業科学館

科学技術の目覚ましい進歩にともない、産業（工業）は著しく発達し、国民生活に大きく向上してきました。これら産業（工業）を支える科学技術は、ますます重要となり、人間社会に対する直接的な影響を強める一方、その理解は複雑で難しいものとなっています。

このような状況下で、科学技術と人間のかかわりを示す産業を主題として、県民の各層に科学技術に対する理解を深め、創造性を養い、かつ、生涯学習体系をふまえた自発的な学習の場を提供することが設置の目的です。

関宿城博物館

本県は、全国有数の文化財保有県です。しかし、急速な地域開発事業の進展により資料の散逸、き損が生じ、また、人口増加による県民構成が多様化し歴史と伝統への認識が稀薄化する傾向が顕著となりました。このため、文化遺産の保護と県民意識の高揚を図る目的で、博物館ネットワーク構想により、県立博物館を設置してきたところですが、このたび「ふるさと千葉5か年計画」に基づいて県立関宿城博物館を設置しました。

房総のむら

房総風土記の丘資料館は、史跡公園「風土記の丘」の施設の一つとして、歴史・考古資料等を主とする専門館と下総地方の地域博物館として設置しました。

房総のむらは、県内に所在する江戸時代後期の様式をもつ古民家のうち、地域、職業等の特色をよく示し建築史的にも価値のあるものを当時の情景も含めて再現するとともに、生活用具も収集整備し、来村者が当時の生活技術や習慣、儀礼等を直接体験を通して学び、伝統文化の継承と未来への発展に資する場とするため設置しました。

両博物館は、平成16年に統合し、「房総のむら」としました。